群教セ	E03 - 03
	平14.206集

互いのよさを認め合える学級づくり
――「ゴーゴー新聞社」の発行と振り返りを生かした取組を通して――

特別研修員　　水谷　忠士

《研究の概要》

本研究は、小学校５年生を対象に、学級の新聞を発行し、それを振り返って考える活動「ゴーゴー新聞社」の取組を通して、互いのよさを認め合える学級づくりができることを、実践的に研究したものである。具体的には、自分や友達のイメージに対する問題点をまとめる活動、友達のよさを探し、よさを記事にした新聞を発行し振り返る活動、今まで発行した新聞を基に、これまでの活動の成果を話し合う活動を行った。

【キーワード：学級経営　小学校　学級活動　よさ　学級づくり】

Ⅰ　主題設定の理由

人間関係の希薄さが原因で起きる事件が騒がれている今日、子供たちが友達のことを深く考え、性格や行動の違いやよさを認め合いながら成長していくことは、望ましい人間関係を育成していく上で大変重要であると考える。本校の教育目標では「心身共に健康で豊かな人間性を持ち、自主的・創造的に行動する児童の育成」を掲げ、５年の学年・学級目標においても「友達のことを考えて生活できる」を掲げている。高学年である５年生という発達段階においては、互いのよさを認め合いながら学級づくりをしていくことが特に大切であると考える。

本学級の児童（５年　男子18名　女子11名）は、元気で活発であり、物事に対して興味・関心を持って取り組む姿勢がみられる。一方でみんなと同じを好み、一人だけ突出したことは避け、人間関係が固定化する傾向もみられた。その要因としては、１年生から単学級であることが考えられるが、その他に自分や友達のよさについて気づく体験をすることや、よさについて改めて考えたり、みんなから認められたりすることが少なかったためであると考えられる。

そのため、まず自分自身のよさや可能性について考えることに焦点を絞り、児童に投げかけをした。それにより４月当初に比べ、授業での挙手が増加したり、係や役などに積極的に参加したりしようという姿が見られ始めた。しかし、児童間での理解がまだ十分に深まっていないため、ちょっとした友達同士のトラブルも多い傾向にあった。

これらの実態から、子供たちが日常生活の中で互いのよさを探し、学級の友とじっくり向き合う活動を行い、活動を通して互いのよさを認め合いながら、常に学級を意識し、学級としてまとまっていこうとする気持ちを高めていくことが必要であると考えた。

そこで本研究では、学級活動や帰りの会を中心に、互いのよさを探して記事にし、それを新聞として発行し振り返る「ゴーゴー新聞社」の活動を通して本主題に迫ろうと考えた。具体的には、自分や友達のイメージに対する問題点をまとめることで、互いのよさを探そうとする意欲が高まると考える。その後、「友達のよさ」を中心とした新聞を発行し、記事を振り返ることで、互いのよさに気づくことができると考える。さらに、発行した新聞からよさの価値を考え、これまでの活動の成果を話し合うことにより、互いのよさを認め合える学級をつくることの思いを深めることができると考える。以上のような活動を通して、互いのよさを認め合える学級づくりができると考え、本主題を設定した。

II　研究のねらい

学級活動や帰りの会において、①自分や友達の固定化されたイメージに対する問題点をまとめる活動、②友達のよさを探して発表したり、「友達のよさ」を中心とした新聞を発行したりし、記事を振り返る活動、③よさの価値をグループで話し合い、模造紙に整理し、これまでの活動の成果を学級で話し合う活動を通して、互いのよさを認め合える学級になることを実践を通して明らかにする。

III　研究の見通し

1　「ゴーゴー新聞社」の事前活動として、６月の学級活動①「知ってる？　自分のこと・友達のこと」において、クラスの友達のことを書いたカードを基にした「友達発見クイズ」を行い、発見したことや気づいたことから、自分や友達に対するイメージの問題点をまとめる活動をすることによって、互いのよさを探そうとする意欲が高まるであろう。

2　「ゴーゴー新聞社」の取組として、友達のことを書いた記事をポストに投函し、その記事を７月から10月の帰りの会でクイズ形式で発表したり、「友達のよさ新聞」を発行したりし、発行した新聞の記事を振り返ることで、互いのよさに気づくことができるであろう。

3　「ゴーゴー新聞社」の取組として、11月の学級活動②「クラスの宝物」において、今まで発行した新聞の記事から、よさの価値をグループで話し合い、模造紙に整理し、ゴーゴー新聞社の活動の成果を学級で話し合う活動をすることにより、互いのよさを認め合える学級をつくることの思いを深めることができるであろう。

IV　研究の内容

1　基本的な考え

⑴「互いのよさを認め合える学級」について

互いのよさを認め合える学級とは、じっくりと友と向き合って話し合い、学級でまとまって行動することのよさや学級の持っている力について考えようとする学級である。目指す児童の姿としては、次の①②③として捉えた。

①　互いのよさを探そうとする意欲が高まる姿。

思っていたほど自分自身や友達についてのよさを知らないことに気づき、よさ探しをする活動や友達、自分自身への関心が高まっている。

②　互いのよさに気づくことができる姿。

よさについて多様な見方で見ようとする意識が高まり、よさの観点を広げたり、よさの見方を変えたりして考えることができる。

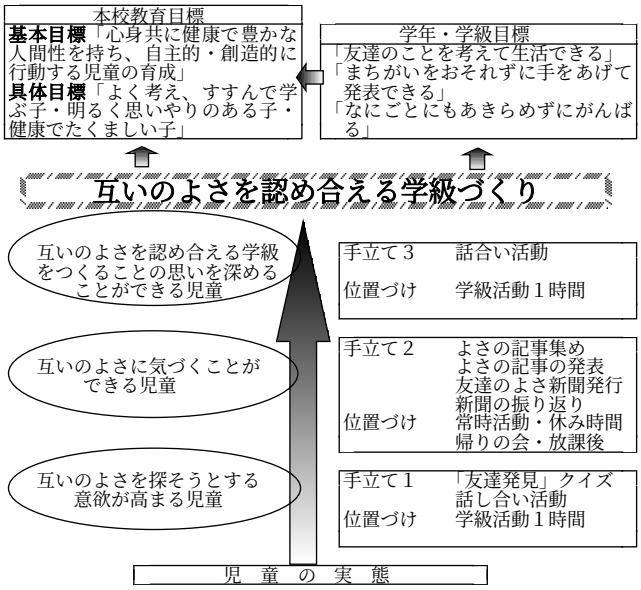


図1　全体構想図

③　互いのよさを認め合える学級をつくることの思いを深めることができる姿。

見えないよさの価値を明らかにし、学級が獲得した成果を意識しながら、学校生活を送っている。

⑵　「友達発見クイズ」とは

学級の誰かのよさを書いたカードから誰のことを書いたものなのか当てるクイズである。このクイズを行うことにより、意外と友達のことを知らない自分を振り返ったり、自分のことがあまり友達に知られていないことを考えることができる。

⑶　「ゴーゴー新聞社」の取組とは

互いのよさを記事とした「友達のよさ新聞」を発行して記事を振り返り、それまでの活動の成果を学級で話し合う一連の活動のことである。「ゴーゴー」の言葉には５年生の児童がよさ探しを積極的に進めよう（ＧＯ）とする思いが込められており、この一連の活動をすることで学級として互いのよさを認め合いながら成長していこうとする心情を育てることができる。

2　実践の概要

検証にあたっては、学級全体と抽出児童Ａ子（「友達発見クイズ」後のアンケートでは、誰のよさのことを言っているのかほとんど分からなかったと記述している）のワークシートや作文の記述、授業後の感想の記述を中心に行った。

⑴　互いのよさを探そうとする意欲が高まったか。（見通し１）

ア　実践の概要

学級活動①「知ってる？　自分のこと・友達のこと」において、一緒に学校生活を送る中で発見した友達のよさをカードに書いていった。（資料１）そして、集まったカード76枚を基に「友達発見クイズ」として「カードに書かれているよさを持っている友達は誰か」をクイズ形式で出題し、答えを発表する活動を行った。さらに、視野を学級全体の友達に広げ、自分や友達に対するイメージの問題点を話合いでまとめる活動を行った。

資料１　カードに書かれた主な友達のよさ

・そうじを一生懸命やっている。
・字がきれい。
・自主勉強をがんばっている。
・いつも手を挙げている。
・やさしい。
・１年生といっしょに登校している。
・係の仕事を手伝ってくれた。
・朝顔の水を忘れずにあげている。

イ　結果と考察

学級活動①「知ってる？　自分のこと・友達のこと」の授業をまとめたのが図２である。事前のアンケートでは「４年間、同じ学級・同じ仲間だからみんなのことをよく知っている」と答えた児童が29人中10人いたが、「友達発見クイズ」をした後の気づきや発見では、29人全員の児童が「すぐには誰だか分からなかった」としており、「知らないことがいっぱいあってびっくり」などの意見が出た。そして、その後のイメージに対する問題点を「思いこみ」「知ろうとしなかった」「一方的見方」であるとまとめた。このまとめを通して、今後の取組に関して「もっと、続けたい（８人）」という活動への関心や「もっと、友達のいいところを探したい（12人）」という友達への関心、「まねしたい（１人）」という自分自身への関心を表す意見が出て、よさ探しへの関心が高まっていった。また抽出児Ａ子は授業後の感想で「友達の知らないことがたくさんあってびっくりした。私自身の知らないこともいっぱいあると思った。私も友達のよいところをたくさん見つけたいし、よいところを知りたい」と記述しており、自分や友

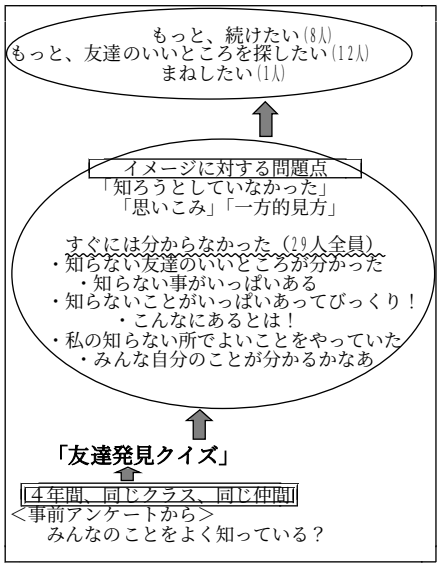


図2　「知ってる？　自分のこと･友達のこと」の授業のまとめ

達のよさを探すことに関心が高いことが分かる。

これらのことから、「友達発見クイズ」を行い、発見したことや気づいたことから、自分や友達のイメージに対する問題点についてまとめたことは、互いのよさを探そうとする意欲を高めたといえる。

⑵　互いのよさに気づくことができたか。（見通し２）

ア　実践の概要

学級内にポストを設置し、休み時間や放課後を利用し、友達のよさを書いた記事（よさカード）を投函した。その記事をもとに、帰りの会でクイズ形式で発表したり、友達のよさを中心とした「友達のよさ新聞」（資料２）を作ったりする活動を行った。そして新聞を発行することで記事を振り返った。新聞作りに関しては、それぞれ班ごとに作成し、月に１回のペースで10月までに全員のよさが記事として載るように考慮した。

資料２　友達のよさ新聞

イ　結果と考察

見通し１の時の「友達発見クイズ」で書かれた友達のよさカードと見通し２で新聞を作るために集めたよさカードの記述内容を観点で分類すると、図３のようになった。全体のカードの枚数を見ると始めの76枚から180枚とよさカードの枚数が２倍以上に増えていることが分かる。また、記述の中の観点の割合を比べてみると、見通し１の時に書かれたカードでは友達本人のことのよさの割合が多いのに対して、新聞を作るために集めたよさカードでは、友達とのかかわりや学級でのかかわりのよさの割合が多くなっていることが分かる。このことは学級の中で、友達を多様な見方で見ようとする意識の高まりが読み取れ、よさに対する観点が広がっていったことが分かる。

観点	学級でのかかわり	友達とのかかわり	友達本人のこと
記述内容	・教室のゴミを拾っていた。 ・教室にこぼれた汁をすぐに拭いている。 ・学級のポストを修繕している。 ・静かにしてとみんなに言った。 ・学級の朝顔に水をやっている。 ・学級に本を紹介してくれた。	・やさしく声を掛けてくれた。 ・相談にのってくれる。 ・遊びに誘ってくれる。 ・１年生と一緒に帰っている。 ・日直の手伝いをしてくれた。 ・給食当番を手伝ってくれた。 ・一緒に探してくれた。	・いつも手を挙げている。 ・やさしい。 ・足が速い。 ・いつも明るい。 ・自分の考えがちゃんと言える。 ・面倒見がいい。 ・自主勉強をがんばっている。

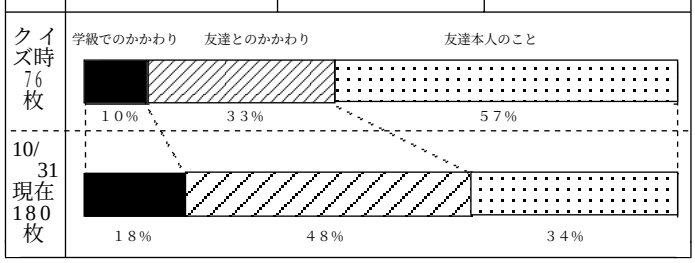


図3　よさカードの分類と観点の割合の変化

抽出児Ａ子は新聞作りにおいて「○○さんはあそびも、帰りもさそってくれてサイコーです」という友達の記事を記述し、「徒競走でころんでも、しっかりあきらめないで走りきった。えらい」という記事を記述してもらっている。さらに、見通し２における抽出児Ａ子の感想（資料３）を見てみると、事前においては「５の１の良い所は、たくさんあるか不安だった」とあり、まだよさを探すことに不慣れな様子が分かる。そして事中では「自分の記事が新聞にのると、たまらなく感どうした」と記述しており、新聞を発行し振り返ることによって、よさを探すことを自分の喜びとしている表現であると受け取れる。さらに、事後においては「なにげなくやっていた事がみんなからは、良い所だったなんてビックリした」と記述しており、よさに対しての見方が変わってきていることが分かる。

これらのことから、友達のよさを探し、よさを書いた記事を発表したり、「友達のよさ新聞」を発行し、記事を振り返ったりすることは、多様な見方で見ようとする意識が高まり、よさの観点を広げたり、普段意識していなかった行動もよさになるという、よさの見方を変えたりすることができ、互いのよさに気づくことができたといえる。

⑶　互いによさを認め合える学級をつくることの思いを深めることができたか。（見通し３）

ア　実践の概要

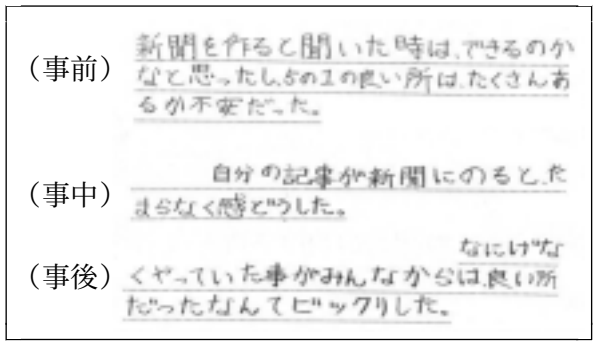
11月の学級活動②「クラスの宝物」において、今まで発行した新聞を基に、自分たちが発行した新聞記事のよいことが、なぜ「よさ」になるのかグループごとにテーマを決め、よさの価値を話し合い、模造紙に整理した。（資料４）その後、学級全体で「よさ」の価値を考え、ゴーゴー新聞社の活動の成果をキーワードで表す話合いを行った。

イ　結果と考察

資料４の「あそびも帰りもさそってくれる」の話合いから、「周りがうれしくなる」「楽しくなる」「友達思い」という価値が表れ、模造紙に整理することにより、今まで見えなかった友達への「思い」や学級のことを考えた「思い」が明確になってきたことが分かる。その後の学級全体で「よさ」の価値を考える場面（資料５）では「よさって、みんなのため（14名）」「よさって、やさしさや思いやり（６名）」「よさって、仲良くできること（２名）」「よさって、笑顔（１名）」などの意見が出され、よさ探しをすることから多様な「よさ」の価値をつかみ、どの「よさ」の価値も互いに関連していることが分かった。

この話合いをもとに、「ゴーゴー新聞社」の活動の成果（宝）を３つのキーワードで表したのが資料６である。この３つのキーワードから、一つの集団として相手を思いやりながら、まとまっていこうとする学級の「思い」が読み取れる。授業後の児童の感想でも「宝を使えば、みんなが明るくなったり、笑顔になる」「宝を意識すれば、クラスが明るくなったり、暴力がなくなる」という記述が見られ、学級全体にこの宝を大切にしたいという気持ちが表れているのが分かる。

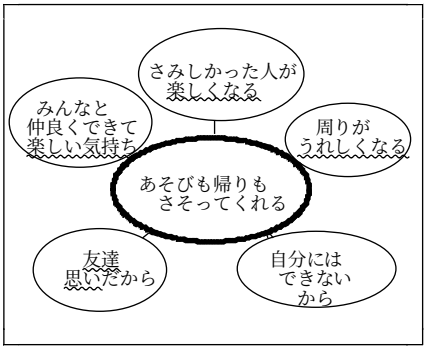
資料３　抽出時Ａ子の感想


（事前）新聞を作ると聞いた時は、できるのかなと思ったし、みんなの良い所はたくさんあるか不安だった。

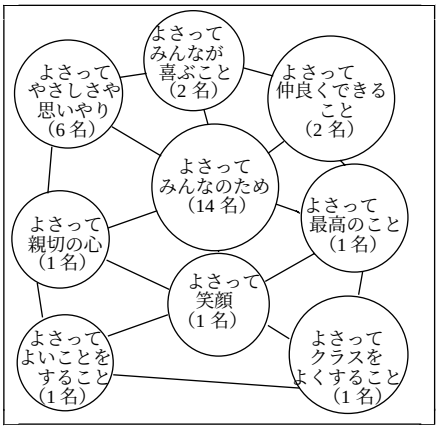
（事中）自分の記事が新聞にのると、たまらなく感じがした。

（事後）なにげなくやっていた事がみんながらは良い所だったなんてビックりした。

資料４　グループでのよさの価値の整理　（Ａ子がいる班）



資料５　学級でのよさの価値の整理



資料６　活動の成果（宝）

思いやり・みんなのため・笑顔

資料７は全活動を振り返ったＡ子の作文である。活動の成果について「この三つの宝があれば、きっと人のためによいことをして、いじめなどの問題がなくなり、心のあたたかいクラスになると思う」とあった。学級で話し合ったキーワード（宝）を踏まえて、今後、学級がどう進んで行かなければならないかを考えていることが分かる。また、「私は、今までの自分がこの体験をして、みんなのよいところをさがせなくて、いいことをあんまりしていないと思い、

はずかしくなった。みんなに負けないほどいい人間になりたいと思った」と記述しており、よさ探しをする活動から、今までの自分自身を振り返り、よいことをすることに積極的でなかった自分を知り反省し、より積極的に行動しようとする決意のほどが読み取れる。さらに「このクラスが最高によいクラスになるためにこうけんしていきたいと思う」と記述しており、学級の一員としての自分自身の役割を意識している姿が読み取れる。

資料7　抽出児A子の振り返りの感想

（前半略）

以上のことから、今まで漠然としていたよさが、発行した新聞を振り返り、よさの価値を構造化し、ゴーゴー新聞社の活動の成果を話し合う活動をしたことで、見えないよさの価値が明らかになり、学級が獲得した成果を意識しながら、互いのよさを認め合える学級をつくることの思いを深めることができたといえる。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

○　友達のよさをクイズ形式で発表する活動をすることで、「やっていて楽しい」という意識が児童の中に芽生え、長期に渡っても、友達のよさを集めようとする意欲が持続できた。

○　「友達のよさ新聞」を発行し、記事を振り返ることで、自分の記事が新聞に載ることを喜びと感じ、同じ思いを友達にも味わわせてあげたいという思いが強まり、自分や友達に対するよさの観点が広がっていったり、よさに対する見方を変えていったりすることができ、互いのよさに気づくことができた。

○　よさの価値を整理し、学級が獲得した成果を表したことで、児童が活動の成果を学校生活の中で自分なりに自覚したり、深めたりし始め、学級でのかかわりを意識した行動（「みんなで使う学級文庫をきちんと整理している」「分からないことはみんなで教え合っている」等）をする児童が目立つようになってきた。

また、「ゴーゴー新聞社」の一連の取組後、「学級のことについて、もっと話し合いたい」という意見が児童から出された。このことから、学級の中にじっくりと友と向き合って話し合い、学級でまとまって行動することのよさや学級の持っている力について考えようとする意識が高まってきたといえ、互いのよさを認め合える学級ができたといえる。

2　今後の課題

今回の授業での成果（宝）を学校生活の中に生かしていきたい。また、今後は学級にとどまらず、学校や地域においても、認め合える児童の育成の場を増やしていきたい。